

大阪府スポーツ推進計画について

平成29年 5月 2日

大阪府スポーツ推進審議会第2次大阪府スポーツ推進計画策定部会 資料

目次

| | | |
|-----|-------------------------|---|
| I | これまでの経過 | 1 |
| II | 大阪府スポーツ推進計画(H24.4)の概要 | 2 |
| III | これまでの主な取組 | |
| | 1. ライフステージに応じたスポーツ機会の創造 | 3 |
| | 2. スポーツの活力を生かした都市魅力の創造 | 6 |
| IV | 目標指標の達成状況 | 9 |

I これまでの経過

- 大阪府・大阪府教育委員会は、平成8年1月に「大阪府生涯スポーツ社会づくりプラン」を策定し、「するスポーツ」と「見る・聞くスポーツ」の振興等を目指すべき方向として、施策を推進。国際的・全国的な大会とともに、地域住民、スポーツ団体等による様々な大会、教室が開催される等、多様なジャンル・種目のスポーツの提供が可能となり、生涯スポーツの振興を大きく進めることができた。
- 「スポーツ基本法」の制定(H23.8)、それに基づく国の「スポーツ基本計画」の策定(H24.3)等を踏まえ、「大阪府生涯スポーツ社会づくりプラン」に基づいた取組の成果を生かし、また、新たな課題に対応し、今後の大阪の生涯スポーツの振興をより一層進めるため、平成24年4月に「大阪府スポーツ推進計画」を策定。
「大阪スポーツ王国の創造」を目指す目標に、当面5年間を目標年次として施策を総合的・計画的に推進。
- 平成29年3月24日、国において「第2期スポーツ基本計画」(計画期間 平成29～33年度)を策定。



国の第2期基本計画を参酌しつつ、府の第2次推進計画(H29～)を策定する必要

スポーツ基本法(H23.8)

「スポーツ振興法」を50年振りに全面改正して制定。「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは全ての人々の権利」であることや「障害者が自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるよう推進されなければならない」旨定める。

スポーツ基本計画(文部科学省 H24.3)

「スポーツ基本法」におけるスポーツの果たす役割を踏まえ、目指すべき具体的な社会の姿を提示。「年齢や性別、障害等を問わず、広く人々が関心、適性等に応じてスポーツに参画することができる環境を整備」を基本的な政策課題とし、10年間程度を見通した概ね5年間に総合的・計画的に取り組む施策を体系化。

第2期スポーツ基本計画(文部科学省 H29.3)

「スポーツ参画人口」を拡大し、他分野との連携・協力により「一億総スポーツ社会」の実現に取り組む」を基本方針とし、第1期計画の内容を大括り化と一層の体系化を図る。

大阪府スポーツ推進計画(H24.4)の概要

目指す目標

～大阪スポーツ王国の創造～

- 理念◆だれもが「する」「みる」「ささえる」スポーツに参加できる大阪を目指す
◆スポーツを通じて健康で明るく活力に満ちた大阪を目指す
◆スポーツを通じて都市の魅力を創造し、発信する大阪を目指す

2本の柱

1. ライフステージに応じたスポーツ機会の創造

市町村、スポーツ関係団体、障がい者スポーツ団体、大学、企業等とより一層連携を深めたネットワークを構築し、府民のだれもがそれぞれの体力や年齢、興味・関心に応じてスポーツを楽しむことができる生涯スポーツ社会を実現

2. スポーツの活力を生かした都市魅力の創造

トップアスリートのパフォーマンスや大規模スポーツイベントを大阪の都市魅力創造の重要なコンテンツとして捉え、強く国内外に発信

施策の展開(主な事業)

- **地域スポーツの活性化**
 - ・総合型クラブ活動促進事業
- **学校における体育・運動部活動の充実及び学校体育と地域スポーツとの連携**
 - ・学校体育実技研修事業
 - ・子ども体力づくりサポート事業
 - ・元気アッププロジェクト事業
- **働く世代におけるスポーツ機会の充実**
 - ・総合型クラブ活動促進事業【再掲】
 - ・府民スポーツ・レクリエーションフェスティバル
 - ・スポーツ情報ネットワークシステム推進事業
- **健康増進・生きがいづくりのスポーツ推進**
 - ・府民スポーツ・レクリエーションフェスティバル【再掲】
 - ・スポーツ啓発事業(後援、顕彰等)
- **スポーツを「ささえる」人材の養成**
 - ・スポーツボランティア養成、派遣
- **「いつでも」「どこでも」「気軽に」スポーツに取り組める障がい者スポーツの推進**
 - ・大阪府障がい者スポーツ大会
 - ・全国障害者スポーツ大会への選手団派遣
 - ・大阪府障がい者交流促進センター事業
 - ・障害者スポーツ指導員の養成・派遣・障がい者スポーツ体験教室

- **トップアスリート等が府民とふれあう機会の充実**
 - ・トップアスリート小学校ふれあい事業
 - ・キッズスポーツフェスティバル事業
 - ・観戦優待事業
- **トップアスリートを目指すジュニア選手や競技選手の養成**
 - ・競技力向上対策事業
 - ・知事賞詞(感動大阪大賞)
- **大規模スポーツイベントの開催**
 - ・大阪マラソン開催
- **国際大会、全国大会の招致**
 - ・オリ・パラ等スポーツ機運醸成(キャンパ誘致、ホストタウン登録等)
 - ・ラグビーワールドカップ2019開催準備
 - ・ワールドマスターズゲームズ2021関西開催に向けた取組
- **民間の力を生かした生涯スポーツの推進**
 - ・プロスポーツチームとの連携事業
 - ・トップアスリート小学校ふれあい事業【再掲】
 - ・キッズスポーツフェスティバル事業【再掲】
 - ・観戦優待事業【再掲】
- **競技スポーツとしての障がい者スポーツの振興**
 - ・大阪府障がい者スポーツ大会【再掲】
 - ・全国障害者スポーツ大会への選手団派遣【再掲】
 - ・大阪府障がい者交流促進センター事業【再掲】

これまでの主な取組

1. ライフステージに応じたスポーツ機会の創造

○地域スポーツクラブの活性化

- ・(公財)大阪体育協会と連携した市町村訪問等を通して、クラブの活性化に向けて指導助言を行うとともに、自立化を支援。
- ・クラブ間の情報共有や人材育成を目的に、研修会を開催。
- ・クラブ間の相互連携を推進するため、大阪府総合型地域スポーツクラブ交流大会を開催。
〔交流大会参加数 H24 722名(17クラブ) ⇒ H28 709名(17クラブ)〕

【現状】

- ・総合型地域スポーツクラブが増加。
〔H24:55クラブ ⇒ H28:61クラブ <府内28市町に設置(設置率65.1%)> 〕
- ・NPO法人化するクラブが増加。
〔H24:15クラブ ⇒ H28:21クラブ(法人化率33.9%)〕

○学校における体育・運動部活動の充実及び学校体育と地域スポーツとの連携

- ・府体育研修センターにおいて、授業の工夫、充実を目指した教員研修を実施。
〔教科「体育」「保健体育」研修等参加者数 H24:871名 ⇒ H28:930名〕
- ・体力向上を目標に、「こども元気アッププロジェクト事業」「子どもの体力サポート事業」等を実施。
〔こども元気アッププロジェクト事業(大縄跳び、ドッジボール、駅伝)参加チーム数
H24:169チーム ⇒ H28:157チーム
子どもの体力サポート事業(専門的な技術指導力を備えた外部指導者を学校に派遣し、児童を直接指導)派遣校数
H28: 61校〕

【現状】

- ・「全国体力・運動能力、運動習慣調査」の結果では、子どもの体力は改善されつつあるが、全国平均を若干下回る。
〔 体力合計点 H27:中2男子 40.26(全国平均41.89)、女子 47.35(全国平均49.08)
H28:中2男子 40.63(全国平均42.13)、女子 48.18(全国平均49.56) 〕
- ・運動・スポーツをすることが好きな子どもの割合は全国平均を若干下回る。
〔H28:小5男子92.9%(全国93.4%)、女子84.5%(全国87.7%)〕

○働く世代におけるスポーツ機会の充実

・生涯スポーツのポータルサイト「なみはやスポーツネット」を通じて、様々なスポーツ情報を発信。
〔アクセス数 H24:185,749件 ⇒ H28:269,563件〕

・(公財)大阪体育協会、大阪府体育連合と連携し、府民体育大会、大阪府総合体育大会を開催し、府民の健康づくりを推進。
〔府民体育大会参加者数 H24:25,974名(58競技) ⇒ H27:25,944名(60競技)
大阪府総合体育大会参加者数 15,762名(13競技) ⇒ H28:15,187名(13競技)〕

・スポーツ参加へのきっかけづくりとして、各種イベントで健康運動指導士を活用して体力測定会やスポーツ体験を実施。(H28～)
〔9回、2,161名〕

【現状】

・働く世代のスポーツ実施率は特に女性で依然低い。
〔H28:女性 30代:17.2% 40代:18.8% 50代:29.0% (全体:28.2%)
男性 30代:27.1% 40代:35.4% 50代:30.3% (全体:33.2%)〕

○健康増進・生きがいづくりのスポーツの推進

・府民スポーツ・レクリエーションフェスティバル、全国健康福祉祭(ねんりんピック)選考会等、多様なスポーツ機会を提供。
〔府民スポレク参加者 H24:27,400名 ⇒ H28:32,500名
ねんりんピック選考会等参加者 532名(14種目) ⇒ 746名(19種目)〕

・自主的・主体的な健康づくり活動の奨励・普及を図るため、職場や地域で活動を積極的に行っている団体を「大阪府健康づくりアワード」として表彰。
〔表彰数(応募数) H27:地域部門 5団体(37団体) 職場部門 4団体(10団体)
H28:地域部門 8団体(20団体) 職場部門 8団体(16団体)〕

・府営公園を活用したウォーキング、ジョギングイベントの開催、マップの作成等、身近にスポーツに親しめる機会を提供。

○スポーツを支える人材の育成

- ・もずやんV・Sクラブ(なみはや国体でのボランティア参加者を中心に設立されたボランティア団体)の事務局を府に置き、各種スポーツ大会でのボランティア活動や団体育成を支援。
- ・総合型地域スポーツクラブのアシスタントマネジャー養成講習会を大阪体育協会と連携し、開催。
- ・大阪マラソンでは約1万人(各回平均)のボランティアの協力により運営。
- ・府以外のスポーツ関連団体、機関において資質向上を図る研修会等を実施し、指導者を養成。

【現状】

- ・もずやんVSクラブの派遣事業、派遣人数とも増加。
[H24:25事業、803名 ⇒ H28:35事業、840名]
- ・日本体育協会公認スポーツ指導者、障がい者スポーツ指導者は着実に増加。

| | | | |
|-------------------|------------|---|------------|
| 日本体育協会公認スポーツ指導者 | H24:7,349名 | ⇒ | H28:7,587名 |
| 日本レクリエーション協会認定資格者 | 3,287名 | ⇒ | 2,111名 |
| 障がい者スポーツ指導者 | 942名 | ⇒ | 1,169名 |
| 計 | 11,578名 | ⇒ | 10,867名 |

○「いつでも」「どこでも」「気軽に」スポーツに取り組める障がい者スポーツの推進

- ・府内における競技スポーツの祭典として大阪府障がい者スポーツ大会を開催するとともに、全国障害者スポーツ大会に選手団を派遣。選手自身が競技力レベルを知ることで、より一層の競技力の向上を図っている。
- ・障がい者スポーツの裾野を拡大するため、各種の障がい者スポーツの体験教室を開催。
- ・ファインプラザ大阪において、十分な知識、技術と経験に基づいた指導ができる中級障がい者スポーツ指導員を養成。
- ・障がい者スポーツの裾野拡大を目的に、スポーツ庁の「地域における障害者スポーツの普及促進事業」を受託し、3か年計画で事業展開(H27～)。

【現状】

- ・大阪府障がい者スポーツ大会の参加者は常時900名を越えている。
[H24:914名 H25:918名 H26:910名 H27:904名 H28:916名]
- ・障がい者スポーツ指導員数は順調に増加。
[H24:942名 ⇒ H28:1,169名][再掲]
- ・「地域における障害者スポーツの普及促進事業」では、パラリンピアンの小学校への派遣、体育教員が障がい者スポーツを経験する研修会等様々な事業を実施。

○トップアスリート等が府民とふれあう機会の充実

- ・在阪プロスポーツチーム等の協力により、アスリートが小学校を訪問し指導する「トップアスリート小学校ふれあい事業」、アスリートが一同に介して舞洲スポーツアイランドでスポーツ教室を行う「キッズスポーツフェスティバル事業」、観戦チケットを優待価格で提供する「観戦優待事業」等を実施。
- ・在阪トップチームと府とのタイアップポスターを府内各学校やスポーツ施設に配付、ゲームやチームの情報を府民に提供。
〔ガンバ大阪、セレッソ大阪、オリックス、ガンバ大阪、セレッソ大阪、大阪エヴェッサ、シュライカー大阪、NTTドコモレッドハリケーンズ〕

【現状】

- ・「トップアスリート小学校ふれあい事業」「キッズスポーツフェスティバル事業」「観戦優待事業」については、安定的に実施。

| | | | |
|-----------------------|----------|---|----------|
| トップアスリート小学校ふれあい事業実施校数 | H24:171校 | ⇒ | H28:140校 |
| キッズスポーツフェスティバル参加者数 | 471名 | ⇒ | 504名 |
| 観戦優待提供ゲーム数 | 42ゲーム | ⇒ | 53ゲーム |

○トップアスリートを目指すジュニア選手や競技選手の養成

- ・在阪プロスポーツチーム等の協力により、アスリートが小学校を訪問し指導する「トップアスリート小学校ふれあい事業」、アスリートが一同に介して舞洲スポーツアイランドでスポーツ教室を行う「キッズスポーツフェスティバル事業」を実施。【再掲】
- ・府のスポーツ振興に功績のあった方や優秀成績者に対し「大阪府知事表彰体育功労者」「大阪スポーツ賞」を贈呈。
- ・府民に深い喜びと感動を与え、かつ、府の施策に大きな貢献をしたスポーツ選手・団体に対して「感動大阪大賞・感動大阪賞」を贈呈。
- ・国民体育大会、同近畿ブロック大会に選手派遣し、経費の一部を負担。

【現状】

- ・国民体育大会の総合成績は常に上位。

| | | | |
|-------------|----|---------|----|
| H24:天皇杯(男女) | 5位 | 皇后杯(女子) | 6位 |
| H25: | 2位 | | 2位 |
| H28: | 6位 | | 6位 |

○大規模スポーツイベント等の開催

- ・府民の多くが参加するとともに、大阪の都市魅力を発信する「大阪マラソン」をH23から開催。海外からのエントリーは1万人を突破、沿道の観客数は年々増加。

| | | | | | |
|-------------|------|------------|---|------|------------|
| 参加者数 | H24: | 30,458名 | ⇒ | H28: | 32,259名 |
| 観客数 | | 1,188,000名 | ⇒ | | 1,330,000名 |
| 海外からのエントリー数 | | 1,068名 | ⇒ | | 10,332名 |

○国際大会、全国大会の招致

- ・ラグビーワールドカップ2019日本大会の会場の一つに花園ラグビー場が決定。東大阪市とともに大会準備共同事務室を設置し、開催準備を推進。

- ・東京オリンピック・パラリンピックの波及効果を取り込むため、施設情報を掲載したHP、リーフレットを作成するとともに、競技団体等からの情報収集等、市町村のホストタウン登録、合宿誘致の取組を支援。

| | |
|-----------|--------------------------------|
| ホストタウン登録済 | ：大阪市(オーストラリア)、泉佐野市(ウガンダ) |
| 継続審査 | ：箕面市(メキシコ、ニュージーランド)、泉佐野市(モンゴル) |

- ・ワールドマスターズゲームズ2021関西の府内開催種目・開催市が決定、大阪府実行委員会を設立(H29.4)。

| | | |
|------|--------------------------------|------------------------|
| 岸和田市 | ：自転車BMX (サイクルピア岸和田BMXコース)、東大阪市 | ：ラグビーフットボール(花園ラグビー場) |
| 泉南市 | ：水泳オープンウォーター(タルイサザンビーチ)、堺市 | ：サッカー及びフットサル(J-GREEN堺) |

○民間の力を活かした生涯スポーツの振興

- ・大学の資源、施設を活用し、地域スポーツネットワーク会議をNPO法人大阪府総合型地域スポーツクラブ連絡協議会と共同で開催。
- ・在阪プロスポーツチーム等の協力により、アスリートが小学校を訪問し指導する「トップアスリート小学校ふれあい事業」、アスリートが一同に介して舞洲スポーツアイランドでスポーツ教室を行なう「キッズスポーツフェスティバル事業」、観戦チケットを優待価格で提供する「観戦優待事業」を実施。【再掲】

【現状】

- ・地域貢献の一環として、大学により総合型地域スポーツクラブが設立。
- ・総合型地域スポーツクラブ等がインターンシップやボランティアの大学生等を受け入れ。
〔インターンシップ受入れ：2クラブ、ボランティア活用：42クラブ〕

○競技スポーツとしての障がい者スポーツの振興

- ・府内における競技スポーツの祭典として大阪府障がい者スポーツ大会を開催するとともに、全国障害者スポーツ大会に選手団を派遣。選手自身が競技力レベルを知ることで、より一層の競技力の向上を図っている。【再掲】
- ・陸上、水泳等を中心に、アスリート強化練習会・選手育成練習会を定期的実施。
- ・障がい者スポーツにおける競技スポーツ分野の指導力等を高めることを目的に、大阪府障がい者スポーツ協会内に、大学教授等を委員として「障がい者スポーツの振興に関する研究会」を設置(H25)、トレーニングプログラム、障がい者スポーツ行事の企画・運営マニュアル、障がい者スポーツ指導マニュアル骨子を作成。(H28)

【現状】

- ・全国障害者スポーツ大会については強化練習会を各競技ごと5日間実施。獲得メダル数はH26に東京都に次いで第2位となり、競技力向上の成果が表れつつある。
〔獲得メダル数 H24:個人97、団体1 ⇒ H28:個人96、団体1〕

目標指標の達成状況

| 項目 | 計画策定時 | 目標(平成28年度末) | 平成28年度 |
|--|---|---|--|
| ■大阪府ではスポーツが盛んだと思う府民の割合〔大阪府「オンリーワン都市調査(インターネット調査)」〕 | 31.0%(H22) | 50% | 40.8% |
| ■成人の週1回以上のスポーツ実施率〔(おおさかQネット「府民の運動・スポーツ」に関するアンケート)〕 | 31.5%(H19) | 50% | 30.6%(※1、2) |
| ■大規模スポーツイベントの応募者数、観客数 | 第1回大阪マラソン(H23) 応募 参加 マラソン 154,822名 27,161名 チャレンジラン 16,922名 2,022名 観客 100万8,500名 | 大阪マラソンについて、前年度*以上 * 第5回大阪マラソン 応募 参加 マラソン 130,975名 30,459名 チャレンジラン 6,839名 1,854名 観客 132万名 | 第6回大阪マラソン 応募 参加 マラソン 126,867名 30,298名 チャレンジラン 6,994名 1,961名 観客 133万名 |
| ■児童(小学5年生)を対象とした、体育授業以外での運動の実施率(週3日以上)〔文科省調査〕 | 54.6%(男子)(H22) 27.9%(女子)(H22) | 60%(男子) 35%(女子) | —(※3) |
| ■府内市町村立小学校のうち、体育授業以外で継続的に体力向上の取組を行う小学校の割合〔府教育庁調べ〕 | 64.3%(H23) | 75% | 88.0% |
| ■大阪府障がい者スポーツ大会における参加者数〔府福祉部調べ〕 | 966名(H22) 944名(H23) | 恒常的に1,000名を上回る | 916名 |

※1 スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」ローデータからの算出値は42.3%

※2 国のスポーツ基本計画では65%程度を目標としていたが、平成28年度で42.5% → 第2期基本計画でも同じ目標値を採用

※3 平成26年度以降調査項目から除外。なお、平成25年度は52.6%(男子)、25.9%(女子)